

2018年3月期 第3四半期 決算発表**主な質疑応答****1. 2018年3月期第3四半期累計の実績を総括してほしい。**

2018年3月期 第3四半期累計のグローバル販売台数は、前年同期比2万5千台増の118万6千台と、第3四半期累計として過去最高の販売台数を達成しました。

グローバル販売が本格化した新型 CX-5 をはじめとして、クロスオーバー系車種の好調な販売が台数成長を牽引しました。地域別には、米国でのフリート販売の抑制およびセダン系車種の販売減少を主要因とし、北米が前年同期比3%減でしたが、中国や日本などの販売拡大により、グローバル全体では同2%増の台数成長となりました。

連結業績は、売上高は2兆5,479億円（前年同期比8%増）、営業利益は1,071億円（同5%増）、四半期純利益（親会社株主に帰属する四半期純利益）は849億円（同6%増）となりました。

営業利益の前年同期に対する変動は、為替の円安による増益効果はある一方で、米国での出荷台数の減少や競争激化による販売奨励金の増加に加え、次世代技術や商品の開発強化による研究開発費用の増加及び原材料価格の高騰が主な減益要因です。

通期見通しにつきましては、グローバル販売台数に各市場の実勢を反映しました。厳しい販売環境を受け、北米や日本で計画台数を引き下げますが、好調な中国の販売台数を上方修正し、通期計画160万台に変更はありません。また、財務指標では、為替レート前提の変更による営業外収益の為替差益などの影響を反映しましたが、営業利益1,500億円と当期純利益（親会社株主に帰属する当期純利益）1,000億円に変更はありません。

2. 上期に続いて、米国の販売計画を引き下げましたが、米国での現状を踏まえ、グローバルでどのように台数成長を図っていくのか説明してほしい。

グローバル販売の通期見通し達成に向けては、新型 CX-5 のグローバルでの販売拡大に加え、昨年12月より販売を開始した新型 CX-8 も台数成長に貢献いたします。クロスオーバー系車種のグローバルでの需要増加にスピーディーに対応するため、防府工場で昨年10月に新型 CX-5 の生産を開始するなど、生産フレキシビリティ拡大も計画通りに進み、販売成長を最大限サポートできる体制も進捗しています。

米国では、フリート販売を抑制したことに加えて、セダン系車種の厳しい販売により台数減少になりましたが、ネットワーク改革を推進するとともに、セダン系車種のマーケティング施策の強化や重点市場によりリソースを集中した取組みを進めています。また、Mazda6 を商品改良し、SKYACTIV-G2.5 ターボや気筒休止技術の搭載に加えて魂動デザインをより深化させるなど商品力を強化し、来期に向けて米国販売の反転を目指します。

3. 米国合併新工場や新会社 EV C.A. Spirit などのトヨタ自動車とのアライアンスの進捗を教えてください。

トヨタ自動車とのアライアンスにおいては、米国合併新工場の建設予定地をアラバマ州ハンツビル市に決定するなど、順調に進捗しています。今後、各国の独禁法当局の許認可等を取得後、合併会社を設立し、2021年の稼働開始に向け、準備を進めていきます。

また、新会社 EV C.A. Spirit での電気自動車の基本構想に関する共同技術開発をはじめとした将来の電動化対応は計画通り進捗しています。各国の環境規制導入の動きに対応しながら、企業として持続的な成長を続けていく為に、電気自動車の基盤技術を協働で作成してまいります。

以上